

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>めざす学校像 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』 部活動の盛んな進学校として、地域から愛され、信頼される学校をめざす</p> <p>育てたい生徒像 ○ 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 ○ 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 ○ 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>
---

<p><b>2 現状分析</b></p> <p>文武両道の校風のもと、全人的発達を目指した教育を伝統的に進めている。その教育方針については、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。近年、進学実績は下降気味であったが、昨年は、緩やかな改善状況が見られた。生徒・保護者アンケートでは、本校のめざす教育に評価いただいております。今後、入学生の学力、伝統の校風を維持発展させるために、生徒の学力伸長のための具体的手立てや部活動との両立の方法を学校全体で取り組んでいく必要がある。また、生徒一人ひとりの抱える問題に対応した個別の指導を進めていく必要がある。</p>
--

<p><b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【平成27年度の重点目標】</p> <p>① 豊かな心とたくましい体の育成 ② キャリア教育の充実 ③ 進路希望の実現 ④ 学習習慣の定着による学力向上</p> <p>【平成27年度チャレンジ目標】 「率先躬行」</p>
--

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習習慣の確立	朝学を通して学習習慣の大切さを喚起するとともに、適切な課題を課し評価し、授業に活かしていくことを通して、学習習慣の確立をはかる。	4: 授業アンケートで、「授業の予習または復習を行っている。ほぼ行っている」の割合が80%以上 3: 授業アンケートで、「授業の予習または復習を行っている。ほぼ行っている」の割合が60%以上 2: 授業アンケートで、「授業の予習または復習を行っている。ほぼ行っている」の割合が40%以上 1: 授業アンケートで、「授業の予習または復習を行っている。ほぼ行っている」の割合が40%未満	2	朝学の導入により、始業前10分間の学習習慣は身についた。また、1時間目より落ち着いた環境の中で授業に取り組むことができるようになった。さらに、適切な課題を課し、その評価を授業に活かす工夫も行われるようになった。しかしながら、そうした取り組みが学習習慣の確立に直接結びついたとは言えない状況が以下のアンケート結果からみられる。授業アンケートで「授業の予習または復習を行っている。ほぼ行っている」の割合は全体で42%、学年別でも1年33%、2年41%、3年60%である。3年生になると数値は改善されてくるが、1、2年生での家庭学習が不足しているため、達成度は2とした。	・学力向上に向けて、学習する習慣を身につけるための朝学の導入は、すばらしいと思う。一方で、生徒が、自発的に勉強する意識改革も必要である。勉強が大切であることを理解させるためには、教育講演会等の実施を入学後の早い段階で実施することを検討してもよいのではないかと。生徒には勉強をしなければならぬという危機感を持たせないといけないと思う。	B
	学力の向上	研究授業や互見授業を通して、授業改善に取り組み、学力が身につく指導の確立を図る。	4: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が80%以上 3: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が60%以上 2: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が40%以上 1: 授業アンケートで、「授業で学んだことが、力として身についていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が40%未満	4	5教科における研究授業では7ヶトレーニング型授業に取り組みされたりするなど授業力向上を目指した新たな取り組みが行われていた。そして、互見授業においても教科内で見学するだけでなく、教科の枠を超えて授業をみることも積極的に行われるようになり、様々な形で授業改善に取り組むことができた。その結果として、授業アンケートでは「授業で学んだことが身についた、ほぼ身についた」という割合が、80%を越えることができ、昨年度に比べて改善した。学年別でも、3年生は88%、2年生は80%、1年生は82%になり全ての学年で80%を越えることができた。このような結果から達成度は4とした。		
生徒指導	自転車通行人の徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内であった。 3: ほぼ計画通り指導ができ、自転車過失事故が10件以内であった。 2: 計画通り指導ができたが、自転車過失事故が10件を超えた。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が15件を超えた。	4	「1学期当初の自転車点検」・「交通安全協会との連携による自転車点検」によって整備の徹底がほぼできた。 また、「交通安全教室」や「登校指導」・「全校集会での度重なる注意」・「生徒による啓発運動」などにより生徒の意識付けを図ることができた。特に、「長府地区交通安全指導」においては昨年度より充実させた。 今年度の自転車事故は昨年度同様7件であったが、指導の効果もあり、このうち自転車の過失によるものは3件であった。	・長府地区での豊高生は、自分から挨拶をしてくれ、とても良い印象である。豊高らしさを感じる。また、地区の文化祭や清掃活動等のボランティア活動にも積極的に参加してもらいありがたいと思う。 ・自転車通学状況では、事故も少なくすばらしい。 ・部活動は、中国大会や全国大会等に多くの部活動が活躍し輝かしい成果があり喜ばしいことである。 ・心の健康は、生徒にとっては大切なことであるので、生徒の相談に的確に対応してもらいたい。	A
	豊かな心の育成	あいさつ・各種活動への積極的参加等の継続的指導を行う。 日常的なコミュニケーション活動や面談等によるサポートを行う。	4: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%未満であった。 3: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%以上10%未満であった。 2: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が10%以上20%未満であった。 1: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が20%以上であった。	4	あいさつの励行は良くできていた。また、部活動加入率は95%であり、各行事・LHR活動等の積極的参加も見られた。さらに、各クラスにおける面談も複数回行われ、記録も充分残した。 数件の人間関係のトラブルと1件の問題行動があったが、全体的に生徒は充実した学校生活を送れたものと思われる。		
	高校生活への適応と心の健康の保持[教育相談担当]	教育相談の立場からの、ケースバイケースでの担任や生徒への働きかけとサポートを行う。	4: 担任と協力して生徒を支援することができた。 3: 担任と情報を共有することができた。 2: 担任との連絡が不足していた。 1: 担任が抱え込み孤立した。	4	メンタルの面で問題を抱える生徒が増加する中で、各学年ごとに教育相談担当を配置し、迅速に対応できるようにして、それぞれ担任を支援し、サポート役として十分に機能した。また、教育相談会で話し合ったり、スクールカウンセラーと連絡を取ったりして、生徒及び担任を支援した。		

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	学年ごとに学習習慣につながる取り組みを実施する。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	学習習慣に繋がる取り組みとして、チャレンジタイムや模試のやり直し、自習室・自習時間の確保など各学年で工夫した取り組みができ、成果の見られた生徒も多い。学校での取り組みだけでなく、今後は家庭での学習習慣をどのように定着させていくかが課題である。	・生徒の進学に対する目的意識を1年次からしっかりと持たせる必要があると思う。 ・生徒が入学したときすぐに意識改革をした方がよい。そのためには、豊高卒業生で、文武両道をなしとげられた方に進学講演会等をして頂くのも良いと思う。	B
	進路情報の提供の充実	学年ごとの進路通信の発行などで将来を見通した進路情報の提供を行う。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	進路通信の発行は各学年毎に実施した。進路資料室での情報提供や各クラスへの配布物を通しての情報提供も十分行われていたが、資料に関する説明不足のためか保護者まで情報が届かないこともあった。今後は保護者への情報提供の強化が課題である。		
総務	学校安全の徹底	学期ごとに施設設備の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検実施率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検実施率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検実施率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検実施率が50%未満であった。	4	各学期に全教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良箇所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境になった。	・大きな事故もなく学校が安全に運営されていることは素晴らしいと思う。 ・学校ホームページに、学校管理の元で生徒が情報発信する部分があっても良いと思う。 ・図書室の利用をさらに活性化させ、本に親しみを持つ生徒をより増やしほしい。	B
	情報提供の充実	分かりやすいホームページや配付するプリント等で、役立つ学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%未満であった。	3	3年前に豊浦高校ホームページを業者委託で新しく作製し、きれいで見やすいホームページになった。また、ホームページ担当者会議も5回実施し、内容の更新・充実を行った。		
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、貸出の増加を図る。	4: 昨年度より貸出数が大幅に増加した。 3: 昨年度より貸出数がやや増加した。 2: 昨年度と貸出数が同じであった。 1: 昨年度より貸出数が減少した。	3	リクエスト箱に要望のあった本を積極的に入れたことなどが、貸出数の増加につながった。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上を目指し授業の充実を図る。	4: 3学年とも目標以上であった。 3: 2学年において目標以上であった。 2: 1学年において目標以上であった。 1: 全学年とも目標に達していない。	4	本校は、運動部への加入率も高くその活動も盛んであり、体育の授業においても豊高体操を始め体力を養う場面が多く、体力・運動能力の向上が著しい。	・文武両道の豊高精神が継続していることを嬉しく思う。 ・歯が健康にとって、大切なことをプロを招いてレクチャーすることも必要ではないか。今後も、虫歯治療の指導をしっかりしてほしい。	A
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4: 治療した者が70%以上であった。 3: 治療した者が50%以上であった。 2: 治療した者が30%以上であった。 1: 治療した者が30%未満であった。	2	う歯が全身に及ぼす影響についての知識不足が目立つ。生活習慣の乱れも関与していると思われる。		
1年	予習・復習を中心とする学習の継続・習慣化	高校生活初期段階において、朝学やチャレンジタイムで学習の習慣化を図るとともに、予習復習の継続を年間を通して働きかける。課題の量についても無理のないよう学年でバランスを配慮する。	「予習・復習を含め家庭学習時間が平日3時間以上」が80%以上 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日3時間以上」が60%以上 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日3時間以上」が40%以上 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日3時間以上」が40%未満	1	11月の学習時間調査での結果、全体の平日平均100分(1時間40分)で、内訳は3時間以上7%、2時間以上25%、1時間以上45%、1時間未満23%であった。土日を含む全体の平均は153分(2時間33分)で、3時間以上30%、2時間以上が40%、1時間以上が24%、1時間未満が7%であった。本校生徒の学習については、土日のまとめどりの傾向がある。	・1年次で学習にしっかり取り組む流れを作る必要がある。 ・土日に生徒の学習の場を提供していることは、よく努力していると思うが、教員の負担が増えないように、地域のボランティア等活用できないか検討してはどうか。 ・勉強に対する考えがおおらかな生徒が多く先生方も大変だとは思いますが、良い環境作りができているとは思いません。	B
2年	キャリア形成能力の育成	個人面談や総合学習等を通して各自が将来の自分の在り方、生き方を考えることで、具体的な進路目標の設定につなげる。	十分な指導を行い、進路目標の設定につながった。 十分な指導を行い、進路目標を設定しようとする意欲につながった。 指導があまり十分ではなく、進路目標の設定につながらなかった。 指導が全くできず、進路目標の設定につながらなかった。	3	今年度から総合学習の時間も増え、新たな試みも増える中で進路を考える機会はかなり増やすことができ、生徒の意識は確実に高まってきている。ただ学校の中心として勉強や部活動に忙しく努力しているため日々の活動に精一杯の面があり、進路目標確定の段階まではいけてない生徒がまだ少なからずいる様子である。		
3年	進路を実現するための自己探求力及び自己啓発力の推進	希望進路の実現を図るために個別に面談やガイダンスを行い、生徒各自のキャリアに沿ったきめ細やかな指導を徹底する。	4: 年間を通して十分な指導ができた。 3: 年間を通してほぼ十分な指導ができた。 2: 年間を通してあまり指導ができなかった。 1: 年間を通して全く指導ができなかった。	3	1学期から個人面談を重ねて早めに希望進路を明確にさせ、それに向けて個別の学習指導等、きめ細やかな指導に努めてきた。小論文指導や面接指導などにも学年全体で取り組んだ。その結果、生徒の意識はかなり高揚して、これまでの遅れを取り戻そうと部活動引退後に速やかに受験勉強に打ち込む姿が多く見られた。		
業務改善	業務の効率化	各種会議時間を短縮し多忙化の解消を図る。	4: ほぼ全ての会議が1時間以内に終了した。 3: 約8割の会議が1時間以内に終了した。 2: 約6割の会議が1時間以内に終了した。 1: 1時間以内に終了した会議は、6割未満であった。	2	職員会議や運営委員会等の定例の会議については、教職員の共通理解を図る必要性から一定の時間はかかる。勤務時間を超過した会議は、少なかった。	・教員自信の意識改革が必要である。第一に教員が健康であることが、生徒のためにもなることだと思う。	B
	職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行う。	4: 再検査者の受診率が、100%であった。 3: 再検査者の受診率が、80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が、70%以上であった。 1: 再検査者の受診率が、70%以下であった。	2	健康管理については、再検査の受診だけでなく、保健指導の実施により、健康管理の促進を奨励している。		

6 学校評価総括（取組の成果と課題）	
教務	朝学の導入により始業前10分間の学習習慣が身につけてきたことや、研究授業においてアクティブラーニング型授業など新しい取り組みが行われたり、教科をこえた互見授業の実施や授業アンケートで「授業で学んだことが身についた、ほぼ身についた」という割合が、80%を越えたことから、先生方の授業改善が一層進んだことが取組の成果としてあげられる。その一方で、課題として昨年度に引き続き家庭学習が低学年ほどできていないことがあげられる。朝学の導入により身につけてきた短時間の学習習慣を家庭学習全体につなげていけるように粘り強く指導するとともに、学習に対する生徒の意識改革を図りながら家庭学習時間の増加を図り、授業改善を学力向上に結びつけていく必要がある。
生徒指導	いずれも、組織的、計画的な指導や繰り返しの指導、早期対応の指導により、各種問題を最小限に抑えることができた。交通安全については、指導をより充実させたことや生徒同士の啓発により、自転車通行マナーの改善が見られるが、一部で意識不足の生徒がおり、継続指導が必要である。豊かな心の育成について、あいさつの励行が浸透しており、また、部活動・学校行事等では積極的な生徒活動がみられ、教員と生徒のコミュニケーションも良くとれており、担任や教育相談による面談も計画的に、また早期対応で行われ、生徒は全体的に明るく、落ち着いた学校生活を送っていた。各学年担当の教育相談係が担任と充分連携したことや中学校と連携した新入生の事前調査、学校カウンセラーの活用により、様々な問題が概ね解決し、担任のサポート役として教育相談室がよく機能した。しかし、一部で解決に至らない事案もあり、メンタル面の弱い生徒や学校不適應の生徒に対する指導が今後の課題となる。
進路指導	1年次の初期指導で行われるチャレンジタイムや大学訪問で、高校生活の学習習慣や大学進学に関する意識付けはしっかりできたと思われるが、そういった意識が学習への取り組みにうまく繋いでいくことが課題として残る。家庭学習の定着や大学進学に対する継続的な意欲などを、1年次の初期指導以降も意識させていく工夫が必要である。
総務	学校の施設設備の安全点検は毎学期実施し、不良箇所の補修を行った。今年度はブラインド方式による避難訓練を実施し、防災意識の高揚を図った。また、豊浦高校ホームページを3年前に新しく業者委託で作製し、きれいで見やすいホームページになり必要時に情報発信を行った。ホームページ担当者会議は計画通り開催し、本校ホームページの整理、充実が行われた。図書においては今年も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい資料を提供できるように努めた。
保健体育	体育の授業・運動部の活動・体育的行事などを通して、体力・運動能力の向上が図られている。歯の治療については、毎学期ごと、口腔衛生週間などを利用し受診勧告を行っているものの、治療率は上がらなかった。
1年	毎年の課題であるが、1年生は高校入試を終え、次の大学入試は3年先のことなので学年全体で安堵感が漂っている。先生方は大学入試は3年かかると考えているので、そのギャップが大きいと思われる。意識を具体的にさせるため、分かりやすい時間で評価基準を設定した。また、日々の継続が大事なため平日の学習時間に絞ってみた。しかし、3時間以上の割合は少なかった。土日を含めると割合が上昇しているため、本校生徒は休日にまとめでりをする傾向がある。平日は部活動による影響は否定できない。また、模試結果や学年通信などを利用して、学年集会やLHRで家庭学習の大切さを具体的な数字を表し伝えているが、時間と共に意識が薄れているようなので、習慣化には至っていない。今年度から実施している朝学は、短時間での復習や読書習慣に役立っている。また、1時間目の授業にも切り替えやすいので傾向としては良いと思われる。また、課題の量はバランスを考えて出しているため、概ね取組状況は良いが、やはり数人は提出期限を過ぎて未提出している。
2年	今年度から総合学習の時間が増えたため、従来から実施している高大連携、各種講演会等に加えて、新たな活動を行うことができた。具体的にはグループワークによる現状分析から今後の決意表明の発表、学部研究から大学研究への移行時期での講演会、進路目標設定の前提となる学力保証のため、各模試ごとの復習解説講座ややり直しの徹底、3学期個人面談実施などであり、年間を通して進路目標設定を生徒に発信することができたと思う。ただ新たな取り組みが多かった面、各取り組みの有効性、方法論の検証、時系列の見直し等が課題である。また、学力層の多様化に伴い、様々な進路情報の提供も視野に入れていく必要が出てきている。
3年	勉学と部活動を真に両立させるためには、何のために勉強するのかということがはっきりとわかっていなければならない。将来の自分を見つめ、それを実現させるために今行うべきことを自覚して少しずつ前進していかなければならない。3年当初、このことを徹底させるために時間をかけて個人面談を行い、生徒一人ひとりの意識の高まりを促して学年全体で希望進路実現への雰囲気を出すように努めた。果たして毎日数十名の生徒が、学校に残って夜遅くまで自学自習を続けるようになった。しかしながらある程度までは目標に近づいたが、なかには1、2年時の不勉強のためにどうしてもそれ以上伸びない生徒が見られた。もっと早くから、各生徒のキャリア設計に目を向けさせ、勉学の必要性に気付かせることが肝要である。
業務改善	会議時間だけでなく業務の効率化と職員の健康管理は、今後も継続して取り組む必要がある。

7 次年度への改善策	
教務	今年度より始まった朝学により毎朝学習をすることは定着しているが、家庭での学習習慣の定着にはほど遠い状況である。特に低学年における定着が見られていない。このような状況を改善していくために朝学の取組や適切な課題を課すことを引き続き行っていくとともに、進路課との連携を図りながら、1年次のチャレンジプランの取組で学習習慣が形作られたものを、その後に活かせるようにしていきたい。また、学習習慣の定着の大切さを生徒に持たせるための取り組みも行っていきたい。さらに、研究授業や互見授業の取り組みを充実させることで、授業改善をより進めて、全体の学力向上だけでなく、生徒一人ひとりの学力向上が進んでいくようにきめ細かな指導を行っていきたい。
生徒指導	「交通安全教室」については、体験的な学習により、マナーや事故の恐怖をより真剣なものとして捉えさせたい。また、生徒総会等、生徒間において啓発できるよう指導したい。「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、中学校との連携、学校内での連携、教員間の共通理解、家庭との連携を重視し、充実させていきたい。
進路指導	次年度は、総合的な学習の時間の年間計画を再検討した形で、より継続的な進路指導計画を構築し、学年進路間、各学年間の連携も十分に図れるような進路指導体制を築きあげていきたい。
総務	学校の施設設備の安全点検は次年度も毎学期実施したい。防火・防災避難訓練は来年度も実施し生徒の安全に努めたい（ブラインド方式も実施）。また、ホームページ担当者会議を計画し、新しくなった本校ホームページの整理、充実を行いたい。図書においては常に新しい情報を取り入れて生徒・教職員の要望を先取りし本校図書室が読書活動のリーダーとなるようにしたい。また、図書委員による新聞発行も引き続き行いたい。
保健体育	授業中や部活動中のケガ防止のために、活動場所の安全管理・指導を徹底し、主体的な活動意欲を引き出させながら体力・運動能力向上を計り図りたい。歯の治療については、う歯保有者に対して、個別の指導を行うなどの取り組みで受診率の向上を図りたい。
1年	文武両道を校風とする本校の部活動レベルの維持・向上のことも考えると、練習時間も必要となる。放課後よりも早朝の課外授業参加などで学習時間の確保を意識させることも必要となる。また、1年生からは絶対大学に行きたいという気持ちがあり感じ取れない。そのため進学に対する意識を高めるための更なる手だてが必要で、将来の目標設定が具体的にできれば、時間を大切に使うことができるようになると思われる。
2年	豊高生は勉強に部活動に大変忙しく、特に2年生は3年生引退後、その状態は顕著である。そのため、鍵となるのはいかに多くの時間を確保し、落ち着いて進路研究を行えるかどうかである。発信し、意欲を促すだけでなく、個人レベルにまで活動を落とし、個々にきめ細かく対応していくのが一番有効であると考えられる。前述した今年度の取り組みの検証を行い、総合学習の時間を有効活用して、個人個人を主体とした活動を増やしていくことが進路目標設定に有効であり、それが中だるみの2学年と言われる中でも、多様化した進路ニーズに対応し、学習へのモチベーションにつながっていくのではないかと考える。
3年	社会の急速な変化に伴い、価値観が多様化して本校に入学する生徒にもかなりの変容が見られる。このような生徒について、3年間きめ細やかな指導をしていくために、これからの本校のあり方について進むべき方向性を見極めて対策を立てる必要がある。特に毎年、懸案となっている勉学と部活動の両立については、これまでの伝統を踏まえて本校での文武両道のあり方として望ましいのはどのような形なのかを、生徒及び保護者を交えて模索していく必要があると思われる。また、2020年度から実施される大学入試改革に鑑みて、将来の社会を担う有為な人材の育成を目指して、カリキュラムの編成等、大まかな方針を打ち出して、先取りできることは実際に行い、修正点を洗い出しながら新制度に向けての準備を怠らないようにしたい。
業務改善	担任、副担任との協働の推進や部活動の週1日休日の推進を図り多忙感の軽減を行う。